

2008年7月18日

千葉大学長
斉藤 康 殿

「テニユア・トラック制度」についての協議の申し入れ

千葉大学ユニオン委員長 福川 裕一

大学を取り巻く情勢がいつそう厳しさを増すなか、平素より千葉大学の運営に尽力されていることに敬意を表します。さて、すでに公表されているとおり、テニユア・トラック制の導入を目的とするプログラム「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」において、千葉大学から申請されていた「優れた若手研究型教員の人材育成システム」が採択され、これに基づく千葉大学の国際公募についても概要が公示されました。このプログラムによって、真に若手研究者活躍の機会が開かれれば望ましいことであるのですが、しかしながら、ここにはいくつか懸念される点が未解決のまま残されているように思われます。

第1に、いわゆるテニユア・トラック制度とは、「若手研究者が、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積み、厳格な審査を経て安定的な職を得る仕組み」を指すものであり、当然「安定的な職」と述べるに足る処遇が用意されねばなりません。千葉大学における現時点の人事制度設計において、この点が十全に果たされるかどうか懸念されるどころです。第2に、このプログラムにおいて新たに持ち込まれた雇用形態が、千葉大学全体の人事制度のなかでどのように位置付けられていくのか、現時点では必ずしも明瞭なかたちで示されてはいません。換言すれば、千葉大学の人事制度設計に関わる将来構想において、テニユア・トラック制度がどのように関わってくるのか（あるいは関わらないのか）といった点が明らかにされないままに新たな雇用形態が導入されようとしています。ユニオンとしては、テニユア・トラック制度が、今後の千葉大学における雇用形態、人事制度にどのような影響をもたらすことになるのか、重大な関心のもとにこれを注視しているところであります。

従って、ユニオンでは、テニユア・トラック制度に関する大学役員会側の現状認識、ならびに今後の長期的な人事制度設計の方針を質し、この問題に関する相互の理解を深め、共通の理解を以て今後の建設的討議の基礎とするために、ここに協議の申し入れを行います。なお、ユニオンとしては、協議をより実りあるものとするために、少なくともこの問題に関して責任ある立場の理事1名以上の出席を求めます。

以上